

# 「知ることは、障がい無くす。」 どんな人も笑顔で共生できる社会をつくりたい



\*職員と障害者メンバーで結成するバンド「グリーンハーツ」。いきいきと歌って踊る姿は、ありがとうファームの信念そのもの



\*障害者アーティストたちの作品が壁一面に並ぶ



\*アートなピアノ。自由な創造性を感じてワクワクする



\*果実工房の商品パッケージとアーティスト AYA さん



\*イタミアートから届く端切れを編み物に



\*作品納品時のアーティスト河原神一さん



\*廃材が色とりどりの小物に生まれ変わる



\*リサイクルアート「ハブラボ」にはたくさんの親子が集まる。障害者アーティストが講師に

## ■障害者が自信を持って生き生きと暮らせる場所

『障害者』という言葉に、あなたはどんなイメージをもつだろうか。体が思うように動かない人。生活に誰かの助けが必要な人。障害者=そんな人たち・・・、とイメージする人もいるのではないだろうか。

障害者基本法によると、障害者の定義は「心身の機能の障害があり、その障害及び社会的障壁（障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの）により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」とされ、障害の種類は、身体障害、知的障害、精神障害などに分けられる。

現在、全国に約960万人、岡山県に約10万人の障害者がいるが、その中には、少しの工夫によって社会的障壁を減らし、自分の能力を活かして充実した人生を歩むことができる人もたくさんいるのだという。

岡山市北区、表町商店街に「おかやまSDGs アワード2020」を受賞した『株式会社ありがとうファーム』という就労継続支援A型事業所がある。ここでは「社会に、障害者についてもっと知ってもらい、障害者の一人ひとりが、自信を持っていきいきと生きられる『共生社会』を作ろう。」という信念のもと、在籍する90名の障害者メンバー

自身の手で自ら地域を盛り上げている。

商店街の一角にある、「GALLERY&CAFÉ」。店内に入ると、壁一面に様々なアートが飾ってある。抽象画や風景画などついつい見惚れてしまう。他にも、編み物や手芸品、アクセサリーなどが陳列されていたり、工作ができるスペースや、ペイントされたアートなピアノまで置いてある。それはどれも色とりどりで、ウキウキする空間だ。

ここが『ありがとうファーム』の本拠地。壁の絵を描いたアーティストも、編み物を作った作家も、そしてコーヒーを運んでくれたスタッフも、皆障害者たちなのである。

多くの就労継続支援A型事業所では、就労する障害者のことを『利用者さん』と呼ぶらしい。それを聞くと、どうしても『障害者=与えられる立場』という構図が頭をよぎる。だが、このありがとうファームは全くもってビジョンが違う。ここでは障害者一人ひとりが会社の『メンバー』であり、運営していく主役。社会から施しを受けて生活するのではなく、自分たちの『仕事』を通じて、自ら社会貢献していこうと、本当にいきいきと働いているのである。

彼らの事業内容は、就労支援に多い内職や清掃作業などではない。アートの制作やレンタル、編み物やアクセサリーなどの販売、飲食店や雑貨店などの運営と、就労継続支援A型事業所としてはちょっと珍しいスタイルだ。

ありがとうファーム アートディレクターの深谷さんは言う。「彼らと仕事していく上で、何か特別

に大きな手伝いが必要というわけではないです。今日やって欲しいことを、口で言うと分からなくなってしまう人には、メモに書いて渡せばいいし、周りが気になって集中できなくなってしまう人には、個人の集中できるスペースを選んであげればいい。本当に些細なことだけど、そのちょっとした優しさがあれば、彼らは十分に『仕事』をできる。」

## ■『ありがとうファーム』のアートチームの活躍

ありがとうファームのアートチームには、かつて少年ジャンプで連載していた漫画家や油絵画家、造形作家、編み物作家、グラフィックデザイナーなど多彩な面々が集う。実際にアートチームが働く2階のアトリエを見せてもらうと、部屋の至る所で制作に精を出すアーティストたちがいた。描きかけの絵やさまざまな画材などが、それだけでも活動的な制作空間だった。

アートは、ただ絵を描いて楽しく過ごすだけでは『趣味』と評価される。だが、ありがとうファームのそれは、趣味ではなく『仕事』である。彼らの作品は、他企業とタッグを組み世の中に生を受け。例えば、株式会社果実工房では、お菓子のパッケージデザインにありがとうファームのアーティストの絵を採用している。岡山ダイハツ販売株式会社では、彼らの絵をレンタルして商談スペースや応接室などに展示している。また、株式会社イ

タミアートの「のぼり」を作る際に発生する端切れをアップサイクルし、ありがとうファームの編み物チームがコースターやペットボトルカバーなど様々なものに蘇らせる。出来上がった作品は、企業のノベルティグッズなどとして活用されている。そしてそこに発生した売り上げのおよそ7割が、実際にアーティストの収入になるという。またこれは、タッグする企業にとっても自社のSDGs活動の一環となり、相互に利があるのだ。

## ■『ハブラボ』アートで商店街を盛り上げたい

「おかやまSDGsアワード2020」を受賞した際に評価され注目を集めた『ハブラボ』という活動がある。地元の企業から出る廃材を活用して物づくりを楽しむ、リサイクルアート教室だ。「GALLERY&CAFÉ」の奥にアトリエを構え、ワークショップを開催したり、日曜以外は毎日開放し、不登校の子の居場所としても活用されている。障害のある子ども、そうでない子ども分け隔てなく自由に参加できる。ここでは、「一人ひとりの子供の個性を何よりも尊重し、子供が100人いれば100通りの表現方法がある」というイタリアの教育手法「レジジョ・エミリア・アプローチ」を用いて、参加する子供たちの自由な発想と豊かな感性を大切にしている。また、講師を務めるのは、なんとありがとうファームのアーティストたち。ハンディキャップアーティストが講師になって

ワークショップを行うのは、全国的に見てもあまり例がないのだという。実際に参加する子供たちもその親たちも、講師の障害について別段気にしていないそうだ。親たちはもともと講師に障害があることは承知して参加しているし、そこに偏見などはみじんもない。ありがとうファーム代表の木庭社長は言う。「参加する子供たちは、たぶん講師に障害があるなんて気づいていない子が多いです。そんなことはお構いなしに、とにかく制作が楽しくて没頭している。きっと大きくなってから振り返って、ああ、あれはそういうことだったんだ、と気づくのでは。でも、それでいいんだと思います。」きっとそれは、ナチュラルに溶け合う共生社会の、最高のスタート方法なのかもしれない。

『ハブラボ』は、一年間で27回開催し千人以上もの親子が参加した。新型コロナウイルス蔓延前では、もちろんそれ以上である。

「私たちは2018年にハブラボの前身である『ファミリーアートパーク』をスタートし、その後その進化系としてこの『ハブラボ』の運営を継続しています。その活動がこれだけの人流を生んでいるのです。これだけの人が集えば、食事需要も増える。そうすれば、商店街の飲食店ももっと賑わいます。素敵なブランドやショッピングで集客するスタイルもいいですが、私たちはこのSDGsな活動に共感してくれる人がどんどん集まってきてほしいな、という思いで、この『ハブラボ』の拠点となる「GALLERY&CAFÉ」のほか、同商店街内に飲食店6店舗と雑貨店1店舗を

障害者スタッフと共に運営しています。また2023年9月には、商店街の南側に『岡山芸術創造劇場ハレノワ』が誕生します。私たちは、この『ハレノワ』と連携して、この商店街を盛り上げていきたいなあと思っています。」と副社長の馬場さんは語ってくれた。『岡山芸術創造劇場ハレノワ』は、市民が「見る」だけではなく市民自らが舞台に立てる、地域に根付いた劇場になるそうだ。ありがとうファームは、更なる人流の増加に期待しながら、アートや音楽などの芸術を架け橋に、この表町商店街が人に優しい『住み続けられる街』として末長く根付くことを願って活動を続けていく。

## おかやま SDGs アワードとは？

岡山という地域に根ざし、SDGsを合言葉として、人々に活気を生み、持続的に生きるための課題解決につながることを期待される取組を表彰します。本アワードを通じて、活動の推進を後押しするとともに、岡山を持続的発展させるため、挑戦していく人材が集まる活力あふれる地域とすることを目指します。



株式会社ありがとうファーム  
(左から) アートディレクター 深谷千草、  
障害者スタッフ いけげ一、副社長 馬場 拓郎

## 担当者からのコメント

私たちに「生き生きと堂々と、人生を生きる」という理念と「知ることは、障がい無くす。」というスローガンがあります。支え合い共に生きる共生社会を創っていくことを大きな仕事として日々活動しています。私たちの姿を知ってもらうためにメンバーとゲストパネラーがおりなす痛快ディスカッション「パラメッセージ白熱トークライブ」が2022年4月から毎月第2水曜 14:00～15:00にありがとうファームのYoutubeチャンネルでが始まります。ぜひご参加ください！

## 株式会社ありがとうファーム

【問い合わせ】 担当：深谷

岡山市北区表町三丁目7-5  
TEL 086-953-4446 / FAX 086-953-4442  
E-mail fukaya@arigatou-farm.com  
https://www.arigatou-farm.com/



👑 「おかやま SDGs アワード 2020」 受賞

👑 「おかやましんきん SDGs アワード 2020」 大賞受賞



# 利他の心を持つ人材の育成と、持続可能な社会の実現を目指して 全社一丸となって取り組むSDGs。



## ■利他の心でSDGsに取り組む会社

2015年に国連サミットでSDGsが採択され、今や岡山でもそれに取り組む企業は増えつつある。日常生活でもよく耳にするようになったし、街の至る所でSDGsのロゴを見かけるようになった。しかし実際のところ、「持続可能な開発目標」と言われてもなんだか難しい。詳しくはよく分からない。」と、自分事として捉えられていない人がまだまだ多いのが現状だろう。

そうした中、100名以上の従業員が一丸となってSDGsに取り組む企業が岡山市にある。それが、「おかやまSDGsアワード2020」を受賞した、服部興業株式会社だ。この会社の事業は、ガラスやサッシ、外壁、土木資材などの建築資材の取り扱いに始まり、石油製品の提供、ガソリンスタンドやコンビニの運営、山林業、不動産業など多岐にわたる。いわば、私たちの暮らす街づくりを支えている会社である。彼らがSDGsの取り組みを始めたのは2018年。まだ今ほどSDGsの認知度も高くなかった頃だ。これほどの規模の会社が、社員一丸となり取り組みをスタートさせるには、きっと相当の努力が必要だったはずである。

2018年に創業200周年を迎えた服部興業株式会社は、『利他の心』を軸とした『服部フィロソフィ』を定めた。『利他の心』とは、他に善かれ、と言う考え方である。それはすなわち、自分だけが良ければいいという利己的な考え方ではなく、周りを助け他に善きことをすれば、視野も広がり、きっと周りの協力も得られ、それが己の豊かさに

繋がる、という考え方である。『服部フィロソフィ』はその考えに基づき、社員一人ひとりが、人として正しいことを実践し、正しい判断ができる人材に育つための羅針盤とされている。

この考え方は、SDGsに通じるところがある。社会的視野に立ち、企業が地域と共に成長発展していくためには、この『服部フィロソフィ』とSDGs、二つの両立こそが大切である、と代表取締役社長の服部俊也氏はSDGs宣言をし、全社をあげて本格的にSDGsに取り組むこととなった。

## ■社員の理解を深めるには

以来、服部興業株式会社では、毎年、全社・各部門がそれぞれに事業内容を再考し、自分たちは社会のために何ができるのかを一人ひとりが意見し合い、各部署がそれぞれ取り組む目標を定め、それに向けて行動しているという。右のページにまとめたように、部署ごとにそれぞれの分野で意欲的に取り組みを行なっている。

世の中、SDGsに取り組む企業が増えているとはいえ、同社のように、全社をあげて取り組んでいる企業は珍しいのではないだろうか。「SDGsに取り組もうとするが、社員の理解や合意形成はやはりなかなか難しく、・・・」という声はまだまだ非常に多いようだ。

100名以上（グループ企業を含めれば、総勢130名以上）もの従業員がいるなかで、各部門がなぜこんなにもSDGsを理解し、取り組む姿勢を見せられるのか。総務部の平川さんに聞いて

みた。「もちろん服部興業グループでも、全員が全員一様に、初めから理解していたわけではありません。皆に理解して、行動してもらえるよう、種まきを続けてきた結果だと思います。CSR委員会が毎月定期的にSDGsの取り組みについて会議をしたり、様々な事例や取り組みを取り上げ、社内報（2ヶ月に1回発行）や社内グループウェアを活用し情報発信しています。そして、毎年各部門が自分たちで取り組む目標を考えていることが、やはり大きいですね。年度の終わりには、その目標の達成度が発表されるので、皆、一年間その目標を意識しながら働きます。また、「決戦の日」と呼ばれている毎月の勉強会や、毎朝の朝礼でのスピーチなどで、SDGsの取り組みを含め、『服部フィロソフィ』に準じた活動を発表し合う場を設けています。」

SDGsは、難しく捉えようになってしまうが、それはつまり紐解けば、自分だけでなく社会のことを考えて行動する、ということだ。ゴミを減らす事、空気を汚さない事、皆が健康に働ける環境を作る事など、社会の課題を一人ひとりが、いかに「自分事」として捉えられるかどうか、ということから始まる。服部興業グループはその種まきを怠らず懸命に取り組んでいるのだ。従業員がSDGsに取り組むことで持続可能な社会の実現への一歩を踏み出し、また同時にそれは同社の企業理念である『利他の心』を持つ人材の育成にも繋がる。『社会課題を解決しつつ、ビジネスとしても成り立つ』というSDGs本来の概念が形となっている良きビジネスモデルの一例と言えるだろう。今後さらなる取り組みに期待したい。



グループ全社において健康経営優良法人の認定を受ける。従業員が、心身ともに健やかに、いきいきと働くことができる環境を整え、「健康人材」が集まる会社を目指している。

### 取組

- ・定期健康診断再検査のフォロー（総務部）
- ・ストレスチェックの実施（総務部）
- ・マスクと消毒液の配布（総務部）
- ・インフルエンザ予防接種の励行と支援（全体）
- ・残業時間の削減（岡山ガラステクノ）
- ・週1回ノー残業デー（岡山ガラステクノ）
- ・万歩計の支給（服部パーキング）



社員が資格や免許を取得することを会社としてサポートしている。また、優秀な社員を皆の投票で決定し表彰する制度もあり、社員のモチベーションアップにつなげている。



\*一年の功労者を従業員の投票で決定し表彰する

### 取組

- ・資格、免許取得推進による人材育成の強化（全体）
- ・表彰制度（全体）
- ・働きやすい環境づくり
  - コロナ禍における臨時休校等に対応した特別有給休暇の創設
  - 育児・介護支援制度の見直し（総務部）



毎月1回開催される勉強会「決戦の日」や、労働災害を起こさないための安全教育、新人研修、パワーハラスメント研修など、従業員に対してさまざまな教育の機会を設けている。また地域に向けて、環境学習の出前講座をすることも。

### 取組

- ・各種研修や勉強会の開催（総務部）
- ・メーカー勉強会への積極的参加（サッシ部）
- ・環境教育指導（山林部）



\*CSR・SDGs勉強会 \*環境教育指導の様子



岡山木材市場では、おがくずや端材などを細かくし固めたペレットを安価で販売。猫砂に使われたり、キャンプなどで使用するペレットストーブの燃料としても使われるエコ素材。

### 取組

- ・ペレット年間販売量34トン（2020年度）（岡山木材市場）
- ・タイヤ販売におけるエコタイヤ比率5.4%（2020年度）（石油部）
- ・マイカーリース契約におけるエコカー比率7.3%（2020年度）（石油部）



\*エコ素材のペレットは、キャンプなどで活用され人気



ペアガラスや耐震パネルを使用し住み続けられる街づくりを行う。また、エコキャップの回収という身近なテーマに取り組むところから「つかう責任」を意識している。



\*ペアガラスは断熱効果が高く省エネが期待できる



\*身近なところから始めるエコキャップ活動

### 取組

- ・複層ガラス11,490m<sup>2</sup>（2020年度）（ガラス部）
- ・内窓、ペアガラス交換工事（サッシ部）
- ・耐震パネル率92.5%・32,080m<sup>2</sup>（2020年度）（外壁部）
- ・災害復旧（河川）矢板・鋼管杭（セメント・土木資材部）
- ・エコキャップの回収活動（服部パーキング）



- 取組
- ・ファジャーン岡山スポンサー（全体）
  - ・高校生向け職場体験の実施（岡山ガラステクノ）
  - ・岡山後援館高等学校森づくり指導（山林部） ほか



真庭市にある390haの社有林はSGEC認証林として認定されている。SGECは、国内の森林認証制度で、違法伐採を排除すると同時に、生物多様性の保全や持続的森林経営のための取り組みを評価された森林に与えられます。現在も適切な森林整備の推進や希少動植物の保護に力を入れています。



### 取組

- ・間伐30.2ha（社有林6.1ha、委託現場22.7ha）（山林部）
- ・貴重な動植物の生育環境確保、ブログ『山の便り』にて配信（山林部）



服部興業株式会社  
総務部 平川 絵梨

## 担当者からのコメント

業務の一環としてだけでなく、個々が普段から意識して動けるようになってほしいなと思います。そのための働きかけとして、昨年12月に山陽新聞社と岡山NPOセンターが行う「KOTOMO(こども)基金\*」への寄付を社員のみなさんに呼びかけ、多くの方が参加してくれました。そうした身近なところから少しずつ、みなさんのSDGsに対する意識が上がるように種まきを続けていきたいです。

\*KOTOMO基金：コロナ禍等で生活が困難な子育て家庭を助けるための基金。

## 服部興業株式会社

関連企業：株式会社岡山木材市場 / 株式会社服部パーキング / 株式会社岡山ガラステクノ

【問い合わせ】担当：総務部

岡山市北区平野620  
TEL 086-293-2111 / FAX 086-293-2112  
E-mail a-kai@hattori-k.co.jp  
http://www.hattori-k.co.jp/



👑 おかやま SDGs アワード 2020 受賞

◀ Facebook ページ「服部興業グループ～SDGsの取り組み～」





## 多様な主体が手を取り合い、瀬戸内の「かきから」で環境と農業を守る



### ■牡蠣殻の行方、抱える処理問題

冬の味覚の代表格、牡蠣。瀬戸内の牡蠣の水揚げ量は実に全国の80%を占める。岡山県は、広島、宮城につく全国第3位。私たちの冬の食卓を彩ってくれている。

あなたは、牡蠣の殻の行方について考えたことがあるだろうか。全国における牡蠣の生産量は年間約20万トン。このうち約8割が牡蠣殻として発生するため、1年におよそ16万トンもの牡蠣殻が出ていると言われている。さらに衝撃的なのはその廃棄の現状だった。

牡蠣殻は漁業系廃棄物の一般廃棄物に該当するそう。まずは「海中堆積場」と言われるところに運ばれる。そしてここで、専用の箱に詰めて、海の中に沈められるのだ。漁連での調査によると、なんと32万トンの殻が沈められているという。しかも、それはやがて海水に溶けてなくなる、というわけではない。2年ほどそこで海水に漬けられた殻は、今度は牡蠣殻処理工場へ運ばれる。ここでさらに2年間、野ざらしにして塩分を除去する。驚きなのはその量だ。まるで巨大な砂丘の如く牡蠣殻が野積みされている。



\*野積みされた殻の山はまるで砂丘のよう

### ■有効利用と可能性

廃棄物としてこれほどまでに増えてしまっている牡蠣殻だが、なにも「100%悪者」というわけではない。実は牡蠣殻には、ミネラルや栄養分が豊富に含まれており、野菜作りの肥料や鶏の飼料などとして古くから活用されているという。

2014年の夏、『瀬戸内かきからアグリ』の発起人の一人である、JA全農おかやまの小原さんの元にこんな声が届いた。『10年ほど前から牡蠣殻を米作りに施用している。これを田んぼに撒いてお米を育てると、良質なお米が出来て収穫量も上がるんだ。』それまで、お米とは全く無関係だと思っていた牡蠣殻の意外な可能性を知った小原さんは、『これはエシカルなお米になる。なんとかこれをブランド化して岡山の米作りを盛り上げることはできないか』と思い立った。そして詳しく調べてみると、非常に興味深い結果が見られた。まず、牡蠣殻には主成分であるカルシウムの他に「コンキオリン」というタンパク質と天然のミネラルが豊富に含まれることから、米の品質向上と収穫量の増加につながる。牡蠣殻を使った田んぼで育った稲は、そうでない田んぼの稲に比べ、根の張りが非常に



\*牡蠣殻を使った方が明らかに根の張りが良い

よく、茎が頑丈になる。これは台風などによる倒伏の軽減に大きな効果があり、収穫量の増大につながる。また、牡蠣殻は木炭のように空洞が多くあるので、有機微生物（バクテリア）が増殖し土壌が改善する、ということまで分かってきたのだ。小原さんは県内の米農家さんに声をかけ、本格的に牡蠣殻資材を使用したお米のブランド化に取り掛かった。

### ■『里海』という考え方

『里海』。それは「人の手が加わることによって生物多様性と生産性が高くなった沿岸海域」と定義される。分かりやすく言えば、人は海から恵みを受けるだけでなく、人もまた海の生態系を守り、自然と共生していくという考え方である。小原さんは、牡蠣殻について調べているなかで、この言葉にたどり着いた。海の恵みである牡蠣を人が食し、残った殻に人の手を加えて有効利用して農作物や家畜を育てる。また、土に撒いた牡蠣殻の養分は、やがて土から川をたどり海に戻る。この循環がまさに『里海』。人と自然との共生であるのだ。小原さんは、これこそが『瀬戸内かきからアグリ』の目指す道だと、出来上がったお米には『里海米』と名付けた。



\*パールライス社で発売されている里海米、品種は3種類

### ■多様な主体が手を取り合える仕組み

もちろん、この取り組みも小原さんと生産者だけでは、ここまで大きく実現することは不可能だった。この里海米をどんなに生産しても消費者に届かなければ意味がない。

『瀬戸内かきからアグリ推進協議会』は、生産者と県内JAで構成される「里海米生産部会」と、それを消費者に届ける「販売部会」、漁業関係者や環境保全団体などの「賛助会員」、そしてそれを取りまとめる事務局（JA全農おかやま）が連携し、生産から販売まで一貫して行えるバリューチェーンを構築した。

岡山パールライス株式会社では、この取り組みに賛同し、販売部会の一員としてコシヒカリ・きぬむすめ・朝日、三品種の里海米の販売を開始。昨今の「エシカル消費」への関心が高まるなか、着実に販売数を増やしている。おかやまコープでは、もともと「アマモ再生」を通して里海への取り組みをしていたこともあり、快く当事業に賛同。「おかやま育ち」というプライベートブランド商品を里海米に切り替え、取り組みのPRを行っている。またそれ以外にも、里海米をノベルティとして採用し、この取り組みを事業PRに活用しているタカラスタンダード岡山支店、提供するお米をすべて里海米にしているみのるダイニング、里海米を使用して日本酒を作る梅錦山川、嘉美心酒造、三冠酒造などの酒蔵など、多様な主体が協働して里海を守り、地元岡山の米消費を盛り上げている。



\*おかやまコープのプライベートブランドのお米は里海米



\*タカラスタンダードのノベルティ米

### ■消費者も食べることで参加できる

実は、私たちがこの『里海ブランド』を食べると、その売り上げの一部が『瀬戸内かきからアグリ基金』として積み立てられる仕組みになっている。そのお金は、里海再生活動を支援する取り組みなどに使用されるそう。つまり、私たち一般の消費者も、それを食べることで瀬戸内海の環境保全の一旦を担うことができると言うことなのである。生産者、販売者だけではなく、消費者もおこの協働の環に入ることができるのだ。

お米の消費量は年々減る一方。昨今の新型コロナウィルスの影響で外食産業での消費も激減。日本全国の米生産者たちはどうお米を売っていくか頭を悩ませ、他県では新種の米の開発に取り組んでいるところも多い。しかし岡山は、品種ではなく、この『エシカルで米を選ぶ』というスタイルを提唱しているのだ。毎日食べるお米を『里海ブランド』に変えるだけで、私たちも地球にいいことができるなら、その選択ははかり価値があるものだと感じる。

### ■教育現場での取り組みも

岡山高等学校（岡山市）では、生徒自らが里海米を生産し、さらにそれを自分たちの手で商品化して販売しているという。牡蠣殻を使用してお米を実際に生産することで、里海の大切さを知り、またそれを販売することで、エシカル消費の重要性を深く学んでいる。その他にも、食育の一環として学校給食



\*里海米を扱う飲食店『みのるダイニング』（さんすて岡山南館2F）



\*『里海米雄町』を使用してできた梅錦山川の日本酒『里海の環』

に里海米を使用するなど、『瀬戸内かきからアグリ事業』は、学校教育現場での取り組みにも力を入れている。

### ■第6回おかやま協働まちづくり賞「大賞」を受賞

この活動を通して、『瀬戸内かきからアグリ』は、2021年までの6年間で、約900トンの牡蠣殻を有効利用してきた。本来「廃棄物」として山積みになっていた900トンが、今までなかった新しい用途に生まれ変わり、人々の食を支えるものとなったのである。

また、こうして様々な業種の企業、団体、消費者、学生などが関わり合い、一緒になって地元の環境や農業を守り、盛り上げるこの仕組みが高く評価され、2021年、第6回おかやま協働のまちづくり賞の大賞に輝いた。

#### おかやま協働のまちづくり賞とは？

「岡山市協働のまちづくり条例」に基づき、豊かで活力ある持続可能な地域社会の実現のため、住民自治組織・NPO・企業・学校・行政など、多様な主体の協働による、優れた地域の社会課題解決の取り組みを表彰し応援しています。

#### 2021年テーマ

「ごみ」を減らし、「資源」で生かす



\*岡山高校の学生が作る米、自分たちで売ること学びを深める



\*市民協働フォーラムで「協働のまちづくり賞」授賞式を開催

### 担当者からのコメント

SDGs（12：作る責任 使う責任）では、食品ロスやプラスチックゴミなどの問題がクローズアップされがちで、本来SDGsの基軸となるべきである「地産地消」の認識が若い世代を中心に希薄になっている、という調査結果もあります。この「瀬戸内かきからアグリ」の活動が、もっとたくさんの方に、地元のことについて考えてもらえるきっかけになったら嬉しく思います。



瀬戸内かきからアグリ推進協議会 事務局  
(全国農業協同組合連合会岡山県本部) 小原 久典

### 瀬戸内かきからアグリ推進協議会

事務局：全国農業協同組合連合会岡山県本部

【問い合わせ】全国農業協同組合連合会岡山県本部（担当：小原）

岡山市北区磨屋町9番18-201号  
TEL 086-234-6876 / FAX 086-231-6256  
E-mail kobara-hisanori@zennoh.or.jp  
http://satoumi.jp/



- 👑 第6回おかやま協働のまちづくり賞「大賞」
- 👑 おかやま SDGs アワード 2021 「優良な取り組み」
- 👑 第9回環境省グッドライフアワード実行委員会特別賞「森里川海賞」